

岡山県金融経済動向

1. 概況

県内景気は、回復を続けている。

すなわち、最終需要面をみると、総じて堅調な企業収益や概ね良好な景況感が維持される中、設備投資は堅調に推移している。輸出も海外経済の拡大を背景に増加している。また、個人消費は底堅く推移している。一方、住宅投資は足もと減少しているほか、公共投資は基調としては低調に推移している。

県内主要製造業の生産活動は、内外需要が堅調に推移する中、振れを伴いつつも緩やかな増加傾向にある。

雇用・所得環境をみると、労働需給が改善を続ける中で、雇用者所得は概ね横ばい圏内にある。

2. 実体経済

(1) 個人消費

個人消費をみると、底堅く推移している。

すなわち、8月の販売動向をみると、百貨店売上高は、身の回り品が引き続き底堅く推移したものの、猛暑の影響から衣料品が秋物を中心に苦戦したほか、食料品も低調であったため、2か月連続して前年を下回った。スーパー売上高も、食料品や生活用品は持ち直しの動きがみられたものの、衣料品が秋物を中心に不冴えとなったため、前年割れとなった。また、乗用車販売も、小型車および軽自動車の販売が低調なため、全体では9か月連続で前年を下回った。このほか、旅行取扱高は、国内旅行、海外旅行ともに団体旅行が落ち込んだため、2か月振りに前年を下回った。

一方、家電販売は、大型・薄型テレビやパソコンが買い替え需要を中心に堅調であったほか、猛暑の影響でエアコンの販売も増加したため、2か月振りに前年を上回った。

また、主要観光地への入り込みをみると、県外観光客が増えていることもあって、多くの施設で前年を上回った。

(2) 設備投資

県内企業の設備投資は、堅調に推移している。

すなわち、19年度の設備投資計画(9月短観調査)をみると、非製造業は小売、建設、サービスなどを中心に小幅の減少計画にある(前年比 1.9%)が、製造業では、化学(競争力強化、能力増強)、石油・石炭製品、輸送用機械(能力増強)、電気機械(新製品対応など)を中心に大幅な増加計画となっている(同+15.0%)。この結果、全産業ベースでは、1割近い増加計画となっている(同+8.9%)。

なお、前回調査(6月調査)と比較すると、鉄鋼、化学など製造業を中心に上方修正となった。

月次の指標をみると、建設投資の先行指標である着工建築物床面積(非居住用)は、足もとでは前年を下回っている(前年比:19/4~6月+18.7% 7~8月 57.2%)¹。

(3) 住宅投資

県内住宅投資を新設住宅着工戸数でみると、改正建築基準法施行による後ずれの影響から、足もとでは減少している。8月は、持家、貸家、マンションのいずれも前年を大幅に下回った(前年比:7月 36.4% 8月 60.1%)。

(4) 公共投資

公共投資は、基調としては低調に推移している。ただし、発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、8月は「独立行政法人等」、「県」、「その他の公共的団体」が前年を下回ったものの、「国」、「市町村」で、大型工事の発注などから前年を上回ったため、全体では2か月連続で前年を上回った(前年比:7月+1.0% 8月+7.7%)。

(5) 輸 出

輸出は海外経済の拡大を背景に増加している。

すなわち、8月の県内輸出(通関実績)をみると、アジア向けが化学、鉄鋼を中心に堅調に推移しているほか、西欧、中東、中東欧・ロシア向けが自動車(完成車)を中心に高い伸びを続けている(前年比:7月+23.7% 8月+32.4%)。

¹ 着工建築物床面積のこうした振れは、改正建築基準法による後ずれも影響しているものと考えられる。

(6) 生産・出荷・在庫

7月の県内鉱工業生産指数(直近計数)の前年比は、輸送用機械、石油で上昇したものの、電気機械、化学を中心に低下したことから、全体では3か月連続の低下となった(前年比:6月 7.7% 7月 1.3%)。

季調済前月比では、輸送用機械が低下したものの、化学、石油などで上昇したことから、全体では4か月振りに上昇した(季調済前月比:6月 3.1% 7月+2.0%)。

この間、在庫指数は、電気機械、繊維を中心に、2か月連続で前年を下回った(前年比:6月 5.4% 7月 6.6%)。

県内主要製造業の最近の生産動向(10業種、付表参照)をみると、造船、工作機械では、豊富な受注残を背景に高操業を継続している。自動車でも、7月に新潟県中越沖地震の影響で一時的に操業を停止した分を取り戻すため、輸出向けを中心に操業度を一段と引き上げている。また、鉄鋼、石油精製、石油化学でも、堅調な内外需要を背景に、高めの生産を続けている。このほか、電気機械でも、携帯電話向け部品等を中心に高めの生産を続けており、耐火物では、大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。この間、農機具では、末端需要の低迷等から全体としては低調な生産を続けている。繊維でも、安価輸入品との競合や海外への生産シフト等から、全体として低水準にある。

こうした中、造船、工作機械、自動車のうち繁忙度が高い先では、残業などによる生産対応を続けている。

(7) 雇用・所得

労働需給面では、8月の有効求人倍率が、高水準を続けている(7月 1.43倍 8月 1.46倍)一方、7月の所定外労働時間は前年を下回った(前年比:6月+1.5% 7月 13.8%)。雇用面をみると、7月の常用労働者数は、前年比マイナス幅を若干縮小させた(前年比:6月 0.7% 7月 0.5%)ほか、9月短観調査の19/6月末雇用者数は前年を上回っている(前年比:+1.1%)。なお、8月の解雇者数は低めの水準にあるが、雇用保険受給者数は、前年を若干上回っている。このように、県内の雇用関連指標は足もとでは弱めの動きもみられるが、総じてみれば改善傾向にある。

賃金をみると、7月の一人当たり現金給与総額は、特別給与が大きく下がる姿となったことから²、前年を下回った(前年比:6月 0.8% 7月 8.3%)。

この結果、雇用者所得は、概ね横ばい圏内にある。

² 夏季賞与の9割程度を占める6~7月の特別給与は前年比 6.8%と減少した。一方で、岡山県経営者協会調べによる岡山県内民間企業の19年度夏季賞与は前年比+1.73%と小幅の増加となった。

(8) 物 価

8月の岡山市消費者物価指数(平成17年基準、生鮮食品を除くベース)をみると、被服及び履物が前年を下回っているが、生鮮食品を除く食料、住居、家具・家事用品、交通・通信等が前年を上回っているため、全体では前年比プラスとなった(前年比:7月+0.3% 8月+0.4%)。

(9) 企業倒産

8月の県内企業倒産(東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(10件<前年21件>)、負債総額(17億円<同455億円>)ともに、前年を大幅に下回った。

3 . 金 融

(1) 実質預金

8月の県内実質預金をみると、個人預金が横這いで推移した中で、法人預金が前年比マイナスに転化したものの、公金預金の前年比プラス幅が拡大したため、実質預金全体の伸び率は拡大した(月中平残前年比:7月+1.8% 8月+2.0%)。

(2) 貸 出

8月の県内貸出をみると、企業向けが設備資金を中心に伸び悩んだほか、地公体向けも前年比マイナス幅が縮小したものの、個人向けが住宅ローンを中心に堅調に推移したため、貸出全体の伸び率は横ばいとなった(月中平残前年比:7月+2.2% 8月+2.2%)。

(3) 貸出約定平均金利

8月の新規貸出約定平均金利(総合ベース)は、3か月連続して前月比上昇した。また、ストック金利(同)も17か月連続で上昇した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707

岡山市丸の内1-6-1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086-227-5111(代表)

FAX 086-227-6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

主要製造業の生産動向

業 種	足もとの動向
自動車	<p>全体としては、新潟県中越沖地震の影響による操業停止の分を取り戻すべく、操業度を一段と上げている。</p> <p>国内向け生産は、小型車では、新型車投入によって生産台数が増加しており、軽自動車も、他社向け供給の効果が続いているほか、在庫調整の進捗から生産水準を若干上げている。輸出向け生産は、完成車がロシア、中東向けを中心に販売好調なほか、欧州向けも他社向け供給効果等から堅調に推移している。また、北米向けも新型車投入で底堅く推移している。このほか、KDも新車投入等から持ち直している。</p> <p>この間、生産ラインでは、残業、休日出勤による生産対応を続けている。</p>
造船	<p>高操業が続いている。</p> <p>大手先の造船部門では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、非造船部門でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンが好調なほか、産業機械向け受注も堅調に推移しており、高操業を続けている。</p> <p>この間、生産現場では、残業による生産対応を続けている。</p>
石油精製	<p>原油処理量は高めに推移している。</p> <p>製品別にみると、ナフサは、石化メーカー向けが堅調に推移していることから、高めの生産水準となっている。ガソリンは、需要が基調として弱含んでいるものの、好天が続く需要が増加したため、やや高めの生産水準となっている。軽油は、内需が底堅く推移しており、輸出向け需要が好調であるため、高めの生産水準となっている。灯油は、燃料転換の進捗もあって、需要が基調として弱含んでいるものの、冬の需要期に向けた積み増しが始まっており、生産量がやや増加している。重油は、生産量が減少傾向にある。</p>
石油化学	<p>好調な内外需要を背景に、全体として高めの生産を続けている。</p> <p>製品別にみると、ポリエチレンは、需要が堅調に推移しているため、高水準の生産となっている。塩ビ樹脂は、輸出向けを中心に、高めの生産となっている。ポリスチレンは、汎用品の需要が弱含んでいるものの、より高付加価値な製品へと生産をシフトしており、高めの生産となっている。</p>
鉄鋼	<p>粗鋼生産量は、堅調な内外需要を背景に高水準にある。</p> <p>製品別の動向をみると、薄板類は、高付加価値品、汎用品ともに需要が好調であり、全体としては高水準の生産を続けている。厚板類は、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移しており、高水準の生産を続けている。形鋼類は、民間建設向け需要が堅調なことから、全体としては高めの生産水準となっている。棒鋼類は、自動車向けや、民間建設向けの需要が堅調なため、高めの生産を続けている。</p>
耐火物	<p>大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。</p> <p>大手メーカーでは、主力取引先である鉄鋼メーカーなどからの受注が堅調に推移している。また、中小メーカーでも、安価輸入品との競合が続いているものの、需要が増加しているため、緩やかに持ち直している。</p>
電気機械	<p>全体として、高めの生産を続けている。</p> <p>製品別にみると、電子部品は、液晶関連、携帯電話関連の受注が増加しており、高めの生産を続けている。スイッチも、携帯電話関連を中心に受注が堅調なため、高操業を続けている。デジタルビデオカメラは、需要期に向けた新製品投入によって、生産量は増加している。</p>
織 維	<p>全体としては低水準の生産が続いている。</p> <p>製品別にみると、綿織物、合繊織物は、安価輸入品との競合などから、生産量は減少している。また、ジーンズ、作業服は、海外生産シフトの影響などから、低水準の生産が続いている。学生服は、海外拠点への生産シフトにより生産量は減少傾向にある。</p>
工作機械	<p>高操業が続いている。</p> <p>NC旋盤は、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に受注が堅調で、高操業を続けている。また、MC(マシニングセンター)も、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に、高操業を続けている。</p> <p>こうした状況下、繁忙度の高い生産現場では、残業、休日出勤による生産対応が続いている。</p>
農 機 具	<p>全体としては低調な生産を続けている。</p> <p>製品別にみると、携帯用刈払機は、欧州向けを中心とした海外需要が堅調に推移しているが、国内需要が低調なため、足もとの生産は低調に推移している。また、コンバインは、需要期に入っているものの、末端需要が低調なため、全体としては低水準の生産が続いている。</p>